

旭川市報道依頼

各報道機関 様

発表日	令和4年2月 日
発信課	文化振興課
担当者	中井、佐藤
連絡先	電 話 内線 8-6329
	F A X
	E-mail

分 類	イ ベ ント・行事 募集 契約・入札 会議・説明会 その他 (該当する分類を囲むこと。)
日 程	3月 26日(土)
発表項目 (行事名)	文学講演会 「原民喜の戦後 ～草野心平発長光太宛の手紙から～」
概 要 (趣旨・日時・ 場所・内容等を 記入すること。)	第1回文学講演会(「道民カレッジ連携講座」) 趣 旨:市民に広く文学に親しむ機会を提供することを目的として、公益 財団法人北海道文学館理事長の平原一良氏をお招きし、文学講 演会を開催いたします。 演 題 「原民喜の戦後 ～草野心平発長光太宛の手紙から～」 日 時 令和4年3月26日(土)午後1時30分から午後3時まで 場 所 井上靖記念館ラウンジ(旭川市春光5条7丁目) 定 員 20名(事前予約が必要) 参加料 無料 申込み 電話(0166-51-1188)またはF A X(0166-52-1740)
添付資料	有 ・ 無 チラシ (有・無のいずれかを囲むこと。) ※ 有の場合、資料の内容を記入すること。なお、別途冊子等の配付を希望 する場合は、その旨記入すること。
報道(取材)に当 たってのお願い	その他詳細については、井上靖記念館にお問合せください。 電話 51-1188 FAX 52-1740 担当 荒川
備 考	

原民喜の戦後

～草野心平発長光太宛の手紙から～

長光太史料から新たに見つかった書簡などの画像をまじえながら、作家・原民喜の戦後の姿に迫ります。

(公財)北海道文学館理事長

講師 平原 一良 氏

2022年3月26日(土)午後1時30分 井上靖記念館ラウンジ

参加料:無料 定員20名

申込は電話で当館まで

(0166-51-1188)

井上靖記念館

〒070-0875 旭川市春光5条7丁目

原民喜の戦後～草野心平発長光太宛の手紙から～

原 民喜（はらたみき）

1905（明治38）年～1951（昭和26）年

詩人、小説家。広島市出身。

草野 心平（くさのしんぺい）

1903（明治36）年～1988（昭和63）年

詩人。福島県石城郡上小川村（現・いわき市小川町）出身。

長 光太（ちょうこうた）

1907（明治40）年～1999（平成11）年

詩人。京都市出身。帯広市で没。

PROFILE



講師：平原 一良（ひらはら かずよし）

日本近代文学研究者／公益財団法人北海道文学館 理事長

1946年12月23日 江別市生まれ

北海道大学文学部国文学科卒

大学卒業後、学術図書・文学書・公立美術館の図録等の編集者、ライターとして東京で18年間を過ごした後、札幌に戻り短期大学教員となる。

1995年4月、北海道文学館に入館、事業課長・学芸副館長を経て、副館長・財団専務理事に就任。文学展や講座・講演等の企画運営、文学資料の収集・調査・研究に従事する。今日まで吉村昭、津村節子、原田康子、池澤夏樹をはじめ、多くの作家らと交流を深める。同館業務のほかに新聞月評、書評、ラジオ・テレビ番組の解説等に携わり、文学・芸術分野における複数の賞の選考委員等を務める。

2018年6月、理事長に就任。井上靖記念館青少年エッセーコンクール初回以来の審査員。

著 書：

『和田徹三論叢』（共著 沖積舎 1997年）

『寒すずめ雪片往来』（共著 雀翁パブリッシング 2010年）

『長光太詩集 登高』（編著 北海道文学館 2007年）

『原田康子～「挽歌」から「海霧」まで～』（編著 北海道新聞社 2010年）